

はくかんぎん

笑顔のその底に

第81号 H24年3月

伊豆市 法住寺 発行



かわらばん

NEWS

穏やかな善い笑顔のお婆さんだった。

太平洋戦争中に子育て、出産、ご主人の召集と、この時代の方々は、多くのご苦勞を乗り越え乗り越えてきた。朝は四時起きしカマドの火をつけ陽が昇る前に朝飯をすませ、明るくなれば野良に出て暗くなるまで体の芯から汗を流した。真っ暗な家に帰って家族の夕食づくり、そして片付け、明日の野良仕事の準備と寝る暇もない程であった。本当に良く働いてこられた。

今の時代なら、そんな生活はとても出来な

いだろうし、
やったとして
も顔にはシワ
を寄せブツブ
ツ愚痴をたら
し、人にも辛

く当ってしまふ。

それなのにあの笑顔、私はお葬儀の後もずつとお婆さんの笑顔を想っていた。どん底までご苦勞した人は丸くなり、穏やかになるのかもしれない。

二月十五日、この日は涅槃會、お釈迦さまの亡くなられた日である。お釈迦さまは、苦しみから抜け出すにはどうしたら良いか修行し遂に覚られた。

皆さんと拝読している(法華經の)欲令衆には、「今この三界は 皆これ我が有なり。その中の衆生は ことごとく皆我が子なり」とある。お釈迦さまは「あなたは私の子ですよ」と言つてくださる。私たちはお釈迦さまの子、お釈迦さまと同類というのです。「え

エ！ こんな私がお釈迦さまと同じだなんて」と思うでしょうが、「我が子だよ」と言つてくださっている。それでも「こんな愚かな私が、……ありえない」と否定するとお釈迦さまの言葉に背き、お釈迦さまはウソを言っているということになってしまう。自分では気づいてないだけ、常識という知識に邪魔されて信じようとしただけなのだと思う。

「私の子であることを信じなさい。」

私たちはお釈迦さまの子、とても尊い存在なのだ。だから自分を責めずに許し、これが自分だと認め、かけがえのない自分を大切にしたい。ただ日々の生活の中では、様々な人間関係や常識の中で、他人を認めることが出来ず、自分の周りにバリアを張ってしまふ。バリアを張ると守られたような気になつて安心するのだが、そのバリアが強固になる程に、苦手な人がどんどん増えてしまい、人を愛せなくなってしまう。そして人を愛せない自分が嫌いになってしまう。

お釈迦さまが「我が子」と言つてくださるのは、自分を許し、もっと自分を信じなさい、自分を好きになつても良いんだよと言つてくださっているのだと思う。

二月十五日、この涅槃會の日は、お婆さんのちようど五七日忌だった、ご家族と共にご回向した。その後、ああそうだったのかと深く想うことがあった。

お婆さんは、ご苦勞の中から皆さんがお釈迦さまの子であることを感知していた。「我が子」である皆さんを「敬つて」いた。だからあの何とも言えない善い笑顔となつたの

だ。あのやすらいだ笑顔の底には相手を「敬う」、その気持ちがあったのだと深く想った。感応といっても良いと思う。

＊

誰でも差別せず相手を「敬う」、自分に苦手な相手でも「敬う」。すると自分のバリアが徐々に柔らかくなり次第になくなっていく。バリアがなくなると周りが広がり解放された気持ちになる。何でも素直に認めることができるようになる。人がだんだん好きになり人を愛せるようになる。そしてそんな自分になって輝いていく。自分本来の「我が子」

きつとそういうことだなと思った。お題目をお唱えすることは、お釈迦さまの子としての本来の自分に帰り、本来の輝きを取り戻す、その覚悟と意欲を高める修行なんだなとも思った。

＊

やっぱりお婆さんの笑顔は素晴らしいものだった。

この寺報はカラーでご覧いただけます。検索「寿量の会」の後、「お寺のおたより」でご覧ください。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

『いつも同じ笑顔で 同じ気持ちで 誰かのために』 今年の年賀状の中にあつた とてもし心にひびく一言です。

＊

お寺にみえる方は、それこそ忙しい時間をやり繰りしてみえる方もあるし、寒い寒い風の中を必死で歩いてくる方も

あるでしょう。電車やバスを乗り継いでくる方もあるでしょう。その方がチャイムを押した時に、どんなに遠くにいても「ハッイ」と大きな声で返事をする事、このことが大切だと思っています。そしてなるだけ早く（これが問題。六十歳になってから、素早く走れなくなってしまうが……）、玄關に出向くように心がけています。雨の日、風の日、暑い日、寒い日。目の前の方が、どんな思いでお寺にいらしたかに『思いを馳せられるか』が私は大切なことと思っています。

＊

仕事に追われ、あれもこれもいっぱい、いっぱいの際は余裕もなくて返事ひとつ、表情ひとつに「いやいやオーラ」が出てしまうかも……。でも いらした方はがっかりして、それこそさみしい思いで帰られることでは

よう。そんなことにならない様に『いつも同じ笑顔で 同じ気持ちで 誰かのために』日々、心がけたいと思っています。今日という日にお寺に来て良かったと、心からホッとしてもらえるために……。

寿量の杜

植樹

今年の春は待ちどうしい。寒さが厳しいからですが、もう一つ待ちどうしいことがあります。寿量の杜に移植した「あかやしお、しろやしお」、どんな花が咲くのでしょうか。この厳冬の中でしっかり蕾をつけています。第二駐車場南側に移植した「土佐ミズキ」、これほど大きいのは珍しいそうです。中庭に植えた「大山レンゲ」は芽が出てくれるでしょうか。

今まで植え続けてきたシャクナゲは花を咲かせるまでに成長しています。モミジ、サルスベリの若芽も楽しみます。

寿量の会

寿量（感謝）の祈りをし、『一日十円貯金』して三分の二（2,400円）は、この国を世界を良くしようと活動している団体に、残りの三分の一（1,200円）を寿量の会にご寄付下

さい。

この呼びかけに賛同して下さった方々から十万円余のご寄付を頂きました。この中からモミジ十本、サルスベリ十本を買わせてもらい寿量の杜に植樹しました。このことは昨年十月のお会式総会での志納金会計で報告させてもらいました。

尚、寿量の会の収支報告は三月末までにご寄付して下さい下さった方々に送付する予定です。来年度(四月以降)も、宜しくご協力お願い致します。この寿量の会「十円貯金」寄付で、これからも植樹を続けていきたいと思っています。

お墓のゴミのお願い

現状

第一墓地の焼却炉は有志の方が燃してくれています。山のように積み上がるとなかなか燃えません。灰は墓地清掃奉仕で毎回処理してくれています。第二墓地は、有志の役員さんが定期的によく見回って、燃したり灰を処理したり周りを整頓してくれています。

お願い

焼却炉は燃えが悪く煙がすぐく出ますので、ゴミを少なくしていきたいです。そこで、これからは各自のお墓から出たゴミは、出来

るだけ持ち帰ることをお願いいたします。

電車、バスや歩いて来るような場合は、今まで通りに焼却炉をお使いください。お互いに協力し合って良い墓地にしていきたいでしょう。

「お願いの案内板」を焼却炉に貼りましたのでご承知ください。

トピックス

星祭

一月末の日曜日、太陰暦の新年を前に星祭があり、沢山の参拝者でにぎわいました。

若いお坊さんの一日寒修行

一月十八日、若い僧侶十人の寒修行が当山でありました。午後三時集合し水行、読経は夜中も切らさず翌日夕方五時までの修行で

した。今年の冬は寒かったのですが、この日は一番の冷え込み。夜中三時の水行の後、朝六時の水行までの三時間で桶に氷が張る程でした。

役員さん、奉仕作業

二月十二日、護持会役員さんが、山門周辺から大京道路まで、大きな雑木を伐採、整頓して下さい、境内はスッキリとしました。

境内整備作業

春は元村①のご奉仕で、大京道路脇の長年積もった土の取り除きと、伐採した雑木の片付けをお願いする予定です。

夏は(七月十五日予定)清水①で草刈りを中心にご奉仕をお願いします。

伊豆法難七五〇年、ご赦免法要

二月二十二日、伊東市仏現寺で日蓮聖人伊豆法難ご赦免七五〇年の大法要を行いました。当山からは護持

会役員さん十名が参列して下さいました。

外トイシ竹垣

外トイレの竹垣を山下清さんが新しくしてくれました。何年か前にも作



にぎわった星祭



大雪のあと、雪合戦



伐採作業の役員さん



つてくれたのです
が傷んできていま
した。

柱を建て竹を組
み込みシユロ縄で

結ぶ、手間のかかる作業でしたが、見事に出
来上がりました。何時も、ありがとうございます
ます。

これからの予定

春季彼岸会

三月二〇日(火・祝)

花まつり

五月 六日(日) 十四時

身延山輪番奉仕 六月二四日(日)

中伊豆立正会大題目 法住寺

七月 八日(日)



洋明さんのおはなし

春といえば、新しい環境で生活をスタート

御志納金「一月〜二月」

百万円 西 杉山勲殿 尊母葬儀砌
五十万円 清水 土屋正次殿 尊母葬儀砌
五十万円 清水 小塚佐紀子殿 夫君葬儀砌
十万円 伊豆市 高野知子殿 お骨預り砌

される方もいらつしやいます。時に、右も左
も分からないこともあるでしょう。仏さま・
諸天善神は『皆さんが、これから何をして、
何をしないかを知っています。その場、時に
応じ姿形を変えて、皆さんを最善の道に導き
ましよう。』と寿命品で説かれています。

*

さて、人は亡くなると四十九日の間、人間
界でも仏界でもない中有という世界で一週
間ごとに七回、仏さまや菩薩さまに会われま
す。三十五日目(五七日忌)には地藏菩薩(閻魔
大王)にお会いになります。そして四十九日
を持つて来世が決まるのです。そんな中、残
された家族や縁ある方は、故人の魂が、迷う
ことなく安らぎの仏様の世界に決定(成仏)
してもらいたいと願い『南無妙法蓮華経』の
お題目をお唱えするのです。

そのお唱えするお題目が、三途の川、死出
の山、冥途等の難所で、船や車や灯となり、
霊山浄土(仏さまの世界)への架け橋になり
ます。

*

しかし、これは決して亡くなった方に
限ったことではありません。今を生きて
いらつしやる方にも『南無妙法蓮華経』
は様々な架け橋になります。

私も、悩みや、迷いは後を絶ちません。時
に歩む道に雲がることも。そんな時、仏さ
ま・諸天善神の『あなたがこれから何をして、
何をしないかを知っています。その場、時に
応じ姿形を変えて、皆さんに最善の道に導き
ましよう。』の一説を思い出し、お題目をお
唱えします。このお題目は、悩みや迷いの雲
を払い、我々が歩む道を照らす明かりであり、
決して揺らぐことのない心の支えです。

時に、「どうして」と思うことや、失敗も
多々あります。しかし、お題目を唱えている
方の身に起こることは、決して「無駄な事は
ない」のです。その時は気付かないのですが、
私も、あの時の「どうして」や、失敗があつ
たからこそと思うことが沢山あります。今に
なつて気付くこと、ひよつとしたら亡くなる
間際に気付くこともあるでしょう。

「無駄な事がない」それはいつも仏さま・
諸天善神が見守つて下さるからです。そう思
えるだけでも心の支えとなります。

皆さんにも、「どうして」や失敗が沢山あ
るでしょう。それによつて、人間を深め、器
を広げることも沢山あります。皆さんに起こ
ることが、決して「無駄な事はない」ように、
また皆さんとお唱えするお題目が、様々な架
け橋になることを願っています。